

近代思想 I

科目ナンバリング PHE-101

選択 2単位

濱田 陽

1. 授業の概要(ねらい)

この世界にはどのような「存在」があるのか。そして、近代以降、私たちが用いてきているテクノロジーの時間とはどのようなもので、それ以外にどのような「時間」があるのだろうか。AI(人工知能)が注目される今日、私たちはスマートフォンや腕時計で時間を確認しているが、川の流れや花の開花など自然や生きものからも時間の変化を感じ取っている。いったい、人が自ら世界を把握する営みには機械に真似できない、いかなる特徴があるのだろうか。

日本が誇る思想家、西田幾多郎、夏目漱石からミヒエル・エンデ(『モモ』)、ハイデガー、アインシュタイン、レヴィ=ストロース(『野生の思考』)など世界の思想家にも学びながら、生命と文化の豊かな世界を再発見していこう。

存在と時間への問いから出発し、自然、生きものに特有の生命の時間、人に特有の文化の時間を見出し、文化の時空を導く。その先には思いがけない未知の世界が広がっている。

「文化の時空」をめぐる思索の旅に分け入ろう。

2. 授業の到達目標

思想への柔軟な視座を養い、講義・教科書の内容をふまえて自身の思考を展開し、内容の深い考察をまとめる思考力、文章表現力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

出席、授業内期末試験により総合評価

*試験テーマは最終講義日2週間前に発表予定

4. 教科書・参考文献

教科書

濱田陽 『日本十二支考 文化の時空を生きる』(2017年1月刊) 中央公論新社

*授業、期末試験で必携、秋学期の近代思想Ⅱでも引き続き使用する。

5. 準備学習の内容

予習では半分程度の理解を目安に教科書の授業予定の章を通読しておくこと。復習では授業中に線を引いた箇所とその前後を中心により深い理解に至るよう再読し、教科書の余白に自分の考察を書き込んでいくこと。これらが期末試験の準備にもつながる。

6. その他履修上の注意事項

「時空」をテーマに様々な思想にふれていくので時間をかけて一步一步理解を深めていって欲しい。

7. 授業内容

- 【第1回】 存在と時空(教科書『日本十二支考 文化の時空を生きる』及び本講義について解説)
- 【第2回】 生きものと文化の多様性について学ぶ(第一部第一章)
- 【第3回】 存在のとらえ方について学ぶ(第一部第二章)
- 【第4回】 存在と時間の関係について学ぶ(第一部第三章)
- 【第5回】 近代文明の時間とそれ以外の多様な時間のとらえ方について学ぶ(第一部第四章)
- 【第6回】 レヴィ=ストロースの野生の思考を参照し文化の時計としての十二支について学ぶ(第一部第五章)
- 【第7回】 時間から導かれる空間について学ぶ(第一部第六章)
- 【第8回】 近代的な時空のとらえ方と生きとし生けるものの時空の違いについて学ぶ(第一部第七章)
- 【第9回】 文化の時空の考察に必要な思考について学ぶ(第一部第八章)
- 【第10回】 鼠の存在を通じ思想的課題について学ぶ(第二部第一章)
- 【第11回】 牛の存在を通じ思想的課題について学ぶ(第二部第二章)
- 【第12回】 虎の存在を通じ思想的課題について学ぶ(第二部第三章)
- 【第13回】 兎の存在を通じ思想的課題について学ぶ(第二部第四章)
- 【第14回】 試験テーマ解説
- 【第15回】 全体講評、教科書による授業内期末試験